

# 2026年度 経営計画

2026年3月30日

日本合成アルコール株式会社

## I. 経営環境

2025年度の原油・ナフサ価格は、中長期的な供給過剰感を背景に下落基調で推移したものの、米国の貿易政策、ウクライナ情勢や中東地域の紛争などの地政学的リスクの影響を受け、不安定な推移となった。

2026年度は中東地域における混乱の拡大と長期化の懸念も想定され、資源・燃料価格の上昇や、それに伴う世界経済の減速、さらには不透明な為替相場の動向が懸念される状況にある。

合成アルコール需要は堅調に推移しているものの、原油高による製造コストの増加が見込まれ、当社の事業環境は引き続き不透明かつ厳しい状況が続くと見られる。

このような状況のもと、当社は国内唯一の合成アルコールメーカーとして、安全・安定操業を確保するとともに、低廉かつ安定的な価格維持に努め、合成アルコールの安定供給責任を着実に果たしていく。

## II. 基本方針

- ・ 需要見通しに基づき安定的な数量の生産及び適正な在庫確保を行う。
- ・ 原料価格上昇に伴うコスト増を可能な限り自助努力で吸収し、低廉かつ安定的な価格での製品供給に努める。
- ・ 原単位の改善等による低コスト生産を実施する。
- ・ グループ事業基盤強化5ヶ年計画に基づき、安全・安定操業を支える重点設備投資・修繕を着実に遂行する。
- ・ メーカーが製品の品質を一元的に管理する体制を整備する。
- ・ 人的資本の充実と働き方改革を推進する。

## III. 具体的施策

### 1. 安定供給

#### (1) 生産

- ・ 需要見通しに基づき年度を通して安定的な数量の生産を行う。
- ・ 運転データの見える化・複合化により、データ活用基盤の高度化を図る。

#### (2) 適正な製品在庫の確保

- ・ 全国のお客様への供給を継続するため、グループ全体で適正な製品在庫数量を確保して安定供給を図る。
- ・ J.alco 袖ヶ浦作業所を合成アルコールの貯蔵基地として、適切に運用する。

### (3) 低廉な供給

- ・ 原料価格上昇に伴うコスト増については、可能な限り自助努力で吸収し、安定的な価格での低廉供給に努める。

### (4) 持続可能な原料調達

- ・ ENEOS(株)との緊密な連携のもと、エチレン及び水素の安定供給体制の維持・強化に努める。

### (5) 定期修理工事への対応

- ・ 定期修理工事の充実に図り、無事故且つ効率的に実施し、期間内に完了させる。

### (6) 設備投資及び修繕

- ・ グループ事業基盤強化5ヶ年計画の初年度として、次の重点設備投資・修繕を着実に完了させる。

- ① 突発性リスクの最小化 : 合成熱交換器チューブバンドル更新
- ② 生産システム制御機能の維持・高度化 : DCS更新
- ③ ユーティリティ設備の信頼性強化 : 大規模冷却塔補修
- ④ 出荷・物流設備による供給責任の確保 : 製品貯槽底板更新・検査 等

### (7) 安全

- ・ 関係法令を遵守と安全教育の充実に努め、無事故・無災害を継続する。

### (8) 省資・省エネ及び経費節減

- ・ 品質を維持しつつ、合成系・精製系の運転条件最適化に取り組む。

## 2. 営業

- ・ メーカー・販社・物流一体運営により、顧客ニーズに的確に対応し、その充足を図る。
- ・ 低廉かつ安定的な価格維持に努める。

## 3. 品質及び環境

- ・ グループ内において、品質をメーカーにより一元的に管理する体制を整備する。

## 4. 組織の基盤強化と改善活動

- ・ 2028年度以降の採用について、会社を挙げた取組体制を構築し、大卒及び高卒オペレーター等とともに必要数の採用を目指す。
- ・ 社員が生き生きと仕事ができる職場環境づくり、働き方改革をグループ各社と連携しながら推進する。

## 5. 情報システムの活用

- ・ グループ各社間の交流を活発化しながら、デジタル技術の活用によりDXを推進する。

## 6. 内部監査

- ・ 業務執行の公正を確保するため、計画的に内部監査を実施する。

以上